



南三陸町長 佐藤 仁

新しい年の始めにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

町民皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。あの悪夢のような東日本大震災から三年九か月が経過し、四度目の新年を迎えました。この間の歳月は、仮設住宅などにお住まいの皆様方にとりましては、なかなか先が見通せない長く不安な日々が続いておりました。ご推察をいたしております。

さて、昨年は、本町の災害公営住宅整備事業としては、「第一号」となる町営名足復興住宅及び入谷復興住宅が完成し、待望の入居が始まりました。この三月には柁沢地区に二十戸が完成予定であり、今後伊里前地区及び戸倉地区と順次進めてまいります。また、浜々の

復興を成し遂げる

防集団地の造成工事も概ね計画どおり進んでおり、昨年度末までに完成した六団地四十一区画を加え、本年度末までには二十団地二百四十区画の完成を見込んでおります。

このような状況の中、町民皆様ご承知のとおり、昨年七月には、天皇皇后両陛下が本町に震災後二回目のお出ましをいただきました。両陛下におかれましては、被災地に大変御心をお寄せいただいております。さんさん商店街及び役場庁舎での視察の際には、心温まる激励のお言葉を頂戴いたしました。このことは、本町にとりまして大変光栄なことであり、私といたしましても、「復興を成し遂げる」との決意を新たにいたしましたところであります。

本年は、志津川市街地のまちづくり、(仮称)南三陸病院・総合ケア

センター並びに戸倉小学校の完成、更には、三陸沿岸道路(仮称)志津川インターチェンジの開通など、復興の状況がまさに目に見える形で本格化してまいります。

今後においても、被災された町民の方々の住まいの再建にしっかりと対応できるよう、必要な施策を積極的に推し進め、安心して暮らし続けられる安全なまちづくりの実現のため、町民の皆様とともに町の復興に全力で取り組んでまいります所存でありますので、よろしくご理解をお願い申し上げます。

結びに、平成二十七年が、町民の皆様にとりまして輝かしい未来への幕開けの年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

復興へ全力で邁進

南三陸町議会議長 星 喜美男



多くの町民の尊い命と財産を一瞬のうちに奪い去ったあの東日本大震災から四度目の新年を迎えることになりました。

町の復興が進む中、仮設住宅にお住まいの町民皆様におかれましては未だ心から新年を祝うお気持ちになれないこととご推察いたしております。すが暦の節目でもありますので、さやかに新年の挨拶を申し上げます。

町民の皆様方におかれましては日頃から議会に對しまして、温かいご支援と多大なるご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。今後も皆様の負託に応えるべく、議員一同、心新たに町政の進展と議会の円滑な運営、活性化に精力を傾注し、議会活動に専念してまいりる決意であります。

震災から三年九か月が経過し、甚大な被害を被った南三陸町であります。すが、少しずつ復興が進んでまいりました。

我々の先人達が、幾多の津波の被害を受けながらも、不撓不屈の精神で苦難を乗り越えて町を再建してきたように、私たちもこの被災経験を生かし、どのような災害に遭遇しても命が守られ、安全で安心して暮らし続けることができる新しい町を作り上げていかなければなりません。

南三陸町では今、全町挙げての取り組みにより、住まいの再建、産業の再生等々復興に向けた歩みを着実なものとし、当議会といたしまして、も、それらの復興事業が、一層加速できるよう全力で邁進する所存であります。

昨年十月に「議会行財政改革に関する特別委員会」が主催して「議会と住民との懇談会」を開催させていただきました。その際には町民皆様方から震災後の生活状況、議会への要望、町づくりの提言など沢山の意見をいただきました。真に実のある懇談会であり、今後も皆様と議会が話し合いを通じて理解を深め、住みよい町づくりを進めてまいります。

新年を迎えるにあたり今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願いするとともに、平成二十七年が町民皆様方にとって、将来への展望が開ける年になりますよう心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。